

台風

が来る！

「台風シーズン」の到来です。台風は、地震や集中豪雨と違って、ある程度襲来時期や大きさを予測することができません。ロケットから気象情報に注意し、万全の対策を心掛けましょう。

台風の襲来に備えよう

台風には十分な警戒を！

台風の死傷者の多くは強風によるものです。台風が接近中に屋根に上っていて飛ばされて転落したり、家や船、田等の見回りなど屋外での作業中に起こっています。また、大雨により河川等が増水するおそれがありますので、近づかないようにしましょう。

早めに台風に対する備えを完了し、強風時にはなるべく屋外へ出ないようにしましょう。

台風が近づいたら

テレビ等の台風情報や気象情報に注意し、余裕を持って行動ができるよう万全の対策をとりましょう。

夜の停電に備えて

停電になっても慌てないように、事前に懐中電灯や携帯ラジオを決まった場所に置いておきましょう。

強風によって電柱が倒れたりすると、長時間に渡り停電する

場合があります。予備の電池や食料品・飲料水を十分に用意し、風呂には水を張り(幼児の浴槽への落下に注意)、トイレなどに使う生活用水を確保しておきましょう。

家のまわりの安全点検

- ・家のまわりの飛ばされそうなものは取り込んでおく
- ・住宅の瓦、雨戸、アンテナ等の補強をしておく
- ・水路のゴミや土砂、住宅の雨どいの掃除をしておく

避難の準備

避難場所を確認し、家族みんなが避難経路の話し合いをしておく

避難に備えて、乳幼児や病人、高齢者の支度を準備しておく

台風通過後の確認

台風が通過した後も地盤がゆるんで山や家が崩れるおそれがあります。家のまわりに危険はないか点検しておく

山口県土木防災情報システムを活用しよう

市内6河川(木屋川、泉川、掛淵川、大坊川、深川川、三隅川)の水位や雨量等の情報は、山口県土木防災情報システムで見ることが出来ます。

山口県土木防災情報システム <http://y-bousairei.fyamaguchi.jp>

水位情報

■通報水位(指定水位)
洪水のおそれがある水位(河川の監視など消防団が出勤準備にあたるための指標水位)

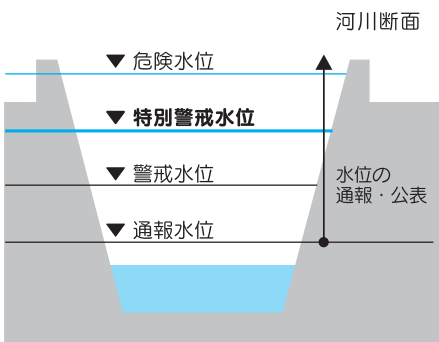
警戒水位

洪水により災害の発生を警戒すべき水位(消防団が要員の警戒配置等、出動にあたるための指標水位)

特別警戒水位

洪水により災害の発生を特に警戒すべき水位(住民が避難

河川の水位情報



危険水位

洪水により相当の被害が生じるおそれのある水位(堤防決壊などが想定され、住民が避難を完了しておくべき水位) 大雨や台風時には、市や関係機関も河川の水位情報や気象情報を収集し見回り等を行っています。災害の兆しがみえたら、関係機関に場所や状況を連絡することも、避難の準備を始めてください。

自主防災組織で

たちむかおう

台風や地震、大雨などの災害はいつ起きるか分かりません。災害が起きたときは、市や関係機関とともに市民のみならず自主的な防災活動があればさらに被害を最小限に食い止めることができます。

自主防災組織は「自らの地域は自ら守る」という考えで自主的に防災活動を行う組織で、自治会や町内会、青年団、婦人会など、地域活動の組織を生かして結成される例が多く、効果を上げるには日頃から災害に備えるための組織づくりが重要です。

問い合わせ

長門市役所総務課 地域安全係

TEL 23・1111

台風三三知識

台風とは

北西太平洋の海上で発生した熱帯性低気圧で、中心付近の最大風速が毎秒17.2m(m/s)以上になったものです。

台風の「大きさ」と「強さ」

台風を表す言葉として台風の「大きさ」と「強さ」があります。「大きさ」は「強風域(平均風速15m/s以上の強い風が吹いている範囲)の半径の大きさで判断します。また「強さ」は「最大風速」で表します。

さらに、強風域の内側で平均風速25m/s以上の風が吹いている範囲を「暴風域」と呼びます。

- 大きさ
- ・表現なし 500km未満
 - ・大型 500km以上 800km未満
 - ・超大型 800km以上
- 強さ
- ・表現なし 17.2m/s以上 33m/s未満
 - ・強い 33m/s以上 44m/s未満
 - ・非常に強い 44m/s以上 54m/s未満
 - ・猛烈な 54m/s以上

予報円が小さくなりました

気象庁では今年の5月21日以降の発表から台風の予報円を最大で20%縮小しました。予報円に入った地域は、これまで以上に台風情報に注意し、万全の備えをとりなければなりません。

台風のコース

台風の進路には、月ごとに平均的なコースがあります。日本へ接近・上陸する台風は、太平洋高気圧の張り出しが弱まる8月と9月に多いのです。

台風の発生数

台風は、年間で平均約27個発生し、そのうちの平均約3個が日本に上陸しています。また、上陸しなくても平均約11個の台風が日本に接近し大きな被害をもたらしています。その多くは9月にやってきているのです。

雨の強さと予想される被害の関係

1時間雨量	予報用語	イメージ	被害発生状況
10mm以上 20mm未満	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続く場合は注意が必要
20mm以上 30mm未満	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30mm以上 50mm未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要
50mm以上 80mm未満	非常に強い雨	滝のように降る	マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい
80mm以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く厳重な警戒が必要

風速と予想される被害の関係

平均風速	予報用語	イメージ	被害発生状況
10m/s以上 15m/s未満	やや強い風	歩きにくくなる	取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始める
15m/s以上 20m/s未満	強い風	風に向かって歩けない	ビニールハウスが壊れ始める 小枝が折れる
20m/s以上 25m/s未満	非常に強い風	しっかり体を確保しないと転倒する	鋼製シャッターが壊れ始める 飛ばされた物で窓ガラスが割れる
25m/s以上 30m/s未満	(暴風)		ブロック塀が壊れる 樹木が根こそぎ倒れ始める
30m/s以上	猛烈な風	立ってられない	屋根が飛ばされる 木造住宅の全壊が始まる

